

広島大学 グローバルインターンシッププログラム  
**NEWSLETTER**

海外インターンシッププログラム(G.ecboプログラム)  
—10年後の自分を探そう 世界と出会うインターンシップ—

2022年3月

第21号 Vol.14 No.1

目次:

コロナウイルスと人間の イタチごっこの中での G.ecboプログラムの対応	1-2
関連国別COVID-19 感染者数グラフ	2
【特集】 広がるG.ecboの輪 ~つながる国際協力のキャリア	3
国際関係で働く OB/OGからのお便り	4-6
世界で、日本で活躍する OB・OG	7-9
【コラム】 先輩の声から考える G.ecboインターンシップ と就活	10
2021年度オンライン留学 WEEKに参加 世界に広がる派遣先紹介 &メッセージ	11
2021年度RA紹介 事務局編集後記	12

コロナウイルスと人間のイタチごっこの中でのG.ecboプログラム



MAHARJAN, Keshav Lall 教授  
大学院人間社会科学部研究科  
国際経済開発プログラム 教授  
G.ecboプログラム運営委員長

COVID-19と命名された新型コロナウイルスが世界中で流行し、既に2年経っている。その間多くの人々が感染し、重症化し、死亡する人もいた。人間はこのウイルスへの感染を防ぐため、3密を避けたり、マスクを付けたたり、頻繁に入念な手洗いをしたり、徹底した消毒を行ったりして感染防止対策を実施している。にも拘わらずこのウイルスはあちらこちらで変異し、重症化率、致死率を高めている。それに対して人間はハンマーとダンスという考え方の基にロックダウン、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言などによって自らの日々の行動を制限し、ウイルスの蔓延を抑えようとしている。さらにワクチンが開発され、その接種により感染が抑えられ、自由に行動できるようになった時期もあった。新型コロナウイルスと人間のイタチごっこである。日本でもウイルス感染者が増えたり、抑えられたりや波があり、目下第6波の対応に追われ、現在(2022年2月)35の都道府県にまん延防止等重点措置が適用され、日常生活の行動に一定の制限を余儀なくされ、ウイルスの蔓延を抑制するようにしている。また、水際対策として国境を越える出入国の移動を制限している。

この間G.ecboプログラムによる海外派遣インターンシップの実施はなかった。2年間も学生の海外インターンシップ派遣がないということは本学の国際化の観点から軽視されることではない。しかしながらG.ecbo型インターンシップは教育的効果を見るとオンラインで実施することは容易ではない。デジタル時代において体験型インターンシップのコンテンツをデジタル化し疑似的体験するいわゆる「バーチャルインターンシップ」を検討することも一つの試行としてあり得るが、インターンシップ受け入れ海外大学・機関においてコンテンツのデジタル化を依頼することは先方にかかなりの負担が強いことになり現実的ではない。別の選択肢として商業ベースでバーチャルインターンシップを行っている会社の企画に本学の学生を選抜して送り込むということも検討できるかもしれない。

G.ecboプログラムとは？

(2頁へ→)

グローバルインターンシップを核としたサンドウィッチ教育を通して、既存の学問領域に縛られない多様な分野の課題に適応できる研究者の輩出、国際協力・国際援助の第一線をリードする実務者の養成と、世界中から集まる留学生や研修生の高度専門職業人としての育成を目指すプログラムです。

(1頁より)

この場合、バーチャルインターシップのコンテンツを事前に点検し本プログラムに適合するかどうかを確認せねばならない。コンテンツの適合性判定を踏まえた上で実施したとしてもそれは、「問題解決型方法で現場のニーズを把握し、学び、多分野的に対応することを主目的とする」本プログラムの目的の達成、その教育的効果を保証しうるとは限らない。

今流行しているオミクロン株は感染力が強いが重症化率、致死率がともにデルタ株に比べて非常に低いといわれている。感染期間が短く、高齢者などを別とすれば、感染症状も軽く、致死率はインフルエンザより何十倍も低いといわれている。これらから日常生活に不自由がないようにとイギリス、フランスなどではマスク着用義務化をはじめとする規制が緩和されている。このような方針は、COVID-19は一種の風土病として捉え、文字通りコロナと共生せねばならないという考え方によるものであると理解されよう。

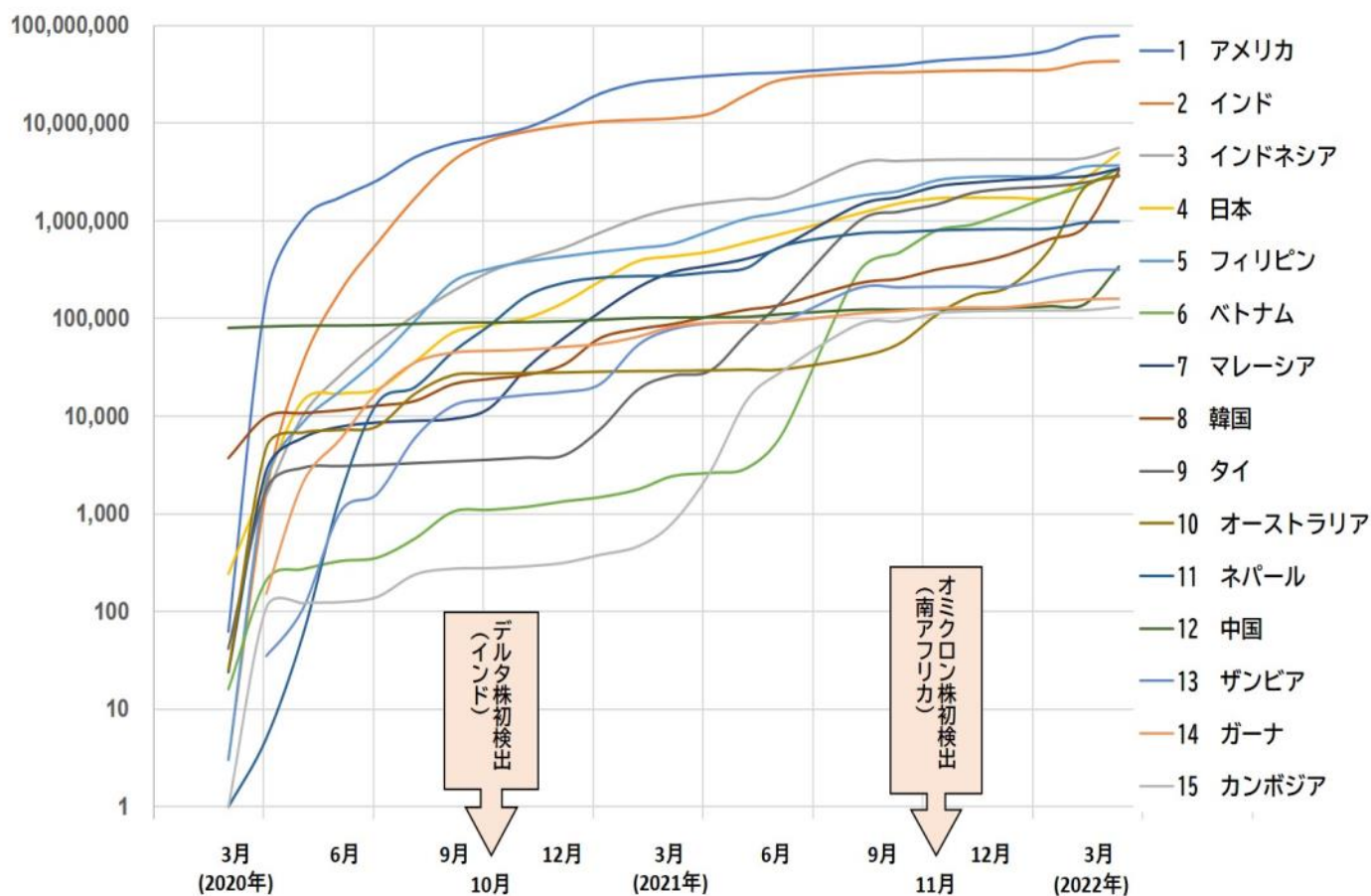
更なる変異株の出現について油断はできないが、今ではワクチンの予防接種に加え、治療薬もでき、今まで行ってきた厳しい行動制限をしなくても済む時期が間もなく到来するかもしれない。本プログラムを運営する側としてこのような時期の到来を大いに期待する。

実際に本プログラムによる学生の海外派遣が可能になった場合、この2年間派遣がなかった分応募者が増える可能性が十分ありえる。今後の応募者にプログラム参加後の情報提供を目的とし、本号では、「広がるG.ecboの輪～つながる国際協力のキャリア～」を特集し、国際関係で働くOB/OGの便り、世界で、日本で活躍するOB・OGの現状を特集記事として掲載している。これらの便り、近況報告を読み、私自身も本プログラムの教育効果、彼らのキャリアパス形成における貢献について再認識する次第である。本学の国際化の一端を担うためにも本プログラムの再開が待ち遠しい。

Be informed, stay safe, stay healthy and be engaged.

G.ecboプログラム運営委員長  
マハラジャン, ケシャブ・ラル

## 関連国別COVID-19感染者数推移グラフ (2022年3月1日時点)



※ WHO Coronavirus(COVID-19) Dashboard より、2020年8月までは1日の、9月以降は1週目のデータを抽出



## 【特集！】 広がるG.ecboの輪 ～つながる国際協力のキャリア～



### 【JICAに関連したインターンシップ一覧】

派遣年度	派遣先(派遣国)
2006年度	アルメック株式会社(フィリピン)・株式会社パデコ(バングラデシュ)
2007年度	JICAガーナ(ガーナ)
2009年度	JICAマカッサル(インドネシア)2名・株式会社パデコ(カンボジア) JICA公募マラウィ(マラウィ)
2010年度	JICA公募セネガル(セネガル)・株式会社パデコ(ガーナ)
2011年度	JICAマカッサル(インドネシア)・株式会社パデコ(カンボジア)
2013年度	JICAインドネシア(インドネシア)・株式会社パデコ(バングラデシュ)
2014年度	JICAインドネシア(インドネシア)
2019年度	JICAボリビア事務所(ボリビア)・NTCインターナショナル株式会社 (コートジボワール)

### 【JICA就職実績】

修了年度	人数
2006年度	2名
2012年度	1名
2016年度	1名
2020年度	2名

広大(東広島キャンパス)のすぐ近くにこんな施設もあります(^^♪

G.ecboプログラムの海外インターンシップの中には、国際協力に関するものも多くあります。JICAに関連する派遣もあります。学生が直接、JICAインターンシップに参加する、JICAと共同プロジェクトを行う、JICAのインターンシップに応募し、合格すると費用補助を受けられる等です。また、派遣学生の中にはJICAの青年海外協力隊を経験し、もっと国際関係の研究をしたいと、広島大学大学院に進学し、さらにG.ecboプログラムを利用し海外インターンシップに参加し研究を深めた学生もいます。

上の表はG.ecboプログラム派遣の中でJICAに関係したインターンシップを挙げています。また、それらの経験を元に卒業後に国際協力関係で働くOBや、JICA職員となり活躍しているOBもおられ、次ページ以降に経験談を掲載しています。

\*独立行政法人国際協力機構(JICA/ジャイカ(注))は、日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。(注)JICA/ジャイカはJapan International Cooperation Agencyの略称です。

### ひろしま国際プラザ (略称:HIP/ Hiroshima International Plaza)

広島県東広島市に1997年に建設された「広島県立広島国際協力センター」と「独立行政法人国際協力機構(JICA)中国センター」が一体化した複合施設で、中国・四国地方の国際協力、国際貢献の拠点施設です。HIPでは海外からの研修員への技術および日本語・日本文化研修や、企業人材への国際研修、NGO(民間援助団体)活動の支援などを実施しています。図書館もあり、漫画の英語版や洋書絵本等もあり、市民も利用できます。



## 国際関係で働くOB/OGからのお便り その1

「近況とG.ecboプログラムへの想い」をお寄せくださった、JICA関係のOBです。

**大窪香織さん** JICA職員 大学院国際協力研究科 修了  
派遣先:2006年度 株式会社アルメック(ベトナム)

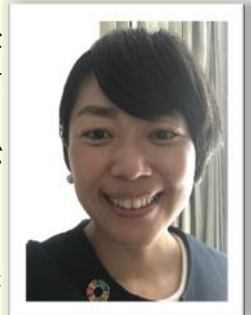
2020年末まで約3年間、カンボジア事務所にてインフラ総括として、道路や港湾、都市開発などカンボジアの国造りに関わってきました。2021年は三男を出産し、子育ての傍ら、PTAや女性のエンパワメントなど、地域社会への貢献に関わる活動を行っています。

グローバルに大規模事業に関わる生活から、ローカルで家庭中心という生活スタイルや視点が急転したこの1年間でしたが、意外にも共通することがあるように感じています。目の前の人を喜ばせることができるか、ということと、未来志向で夢を描き、共創で実現する面白さです。

ODAを活用したインフラ整備は、日本のインフラ海外展開の戦略などもあり、日本側目線で構想されることがありますが、大切なのは、パートナーであるカンボジア政府やカンボジアの国民が将来に渡って喜ぶ商品やサービスを工夫して提供できているか、の視点を常に忘れないことだと感じています。これは家庭でも、また地域活動でも同じで、「自分が何をしたいか」を超えて、「相手が何を必要としているか」、その中で「自分がどんな貢献ができるか」、つまり、「目の前の人をどう喜ばせることができるか」を突き詰めて考えることがとても大切だと実感しています。

また、気候変動や貧困、健康な暮らしなど、未来に続く課題が多く残る中で、未来の子どもたちが喜ぶ世界を実現するために様々なアクターを巻き込む大切さも感じます。夢は皆で叶える時代が到来していると強く感じています。思い起こすと、生活者の視点を考えることや多様なメンバーを巻き込む姿勢は、援助機関の職員になる前に、G.ecboでベトナムやタイで現地の生活に溶け込んだ経験、そして、留学生が多い研究室で過ごした時間に根っこがあるように思います。

援助機関の一職員としての視点を超えて、一人の人間として地域社会に何ができるか、また周りの人達を巻き込み、どのようなインパクトを紡げるか、未来の子どもたちにどんな世界を残してあげられるかを考え、挑戦する日々です。



カンボジア赴任中、公共事業運輸省のメンバーと



令和3年度 社会基盤環境工学 進路セミナーにて  
日 時 : 2021年11月15日(月)13:15~17:50  
場 所 : 広島大学工学部《進路セミナー》103講義室

卒業生として、進路セミナーに講師として招かれ、お話しされている大窪さん



2006年 株式会社アルメック(ベトナム) インターンシップ時

「夢は必ず叶います、描くことができれば 20-30年後になりたい自分のプロフィールを書こう!」  
「両立を超えて、やりたいことはすべてやる、できる」





## 国際関係で働くOB/OGからのお便り その2

浅田義教さん

国連職員(JPO) 大学院国際協力研究科(IDEA) 修了  
派遣先: 2011年度 グラミン銀行(シャクティ)(バングラデシュ)

広島大学大学院国際協力研究科(IDEA)を卒業後、ラオスの日本大使館にて専門調査員として働き、二国間の国際協力がどのように形成されていくかについて学ぶ経験をさせてもらいました。その後、JICAラオス事務所で企画調査員として、今度は少し現場に近いところで国際協力の実務に携わる機会を得ました。現在は、途上国の国際協力の現場で働いた経験を基に、よりグローバルな視点で、途上国全体に対してより効果的な国際協力の枠組みを構築するサポートを行なっている、UNDPで働く機会をいただいています。



### ーG.ecboプログラムへの思い

以前も書いた様に、G.ecboへ応募する際、普段の慣れた日常から飛び出すのが怖く、また不安で、正直なところ初めは応募には後ろ向きでした。それでもなんとか応募に踏み切れたのは、インターンシップ候補先の中に、IDEAに入学する前に仕事で滞在していたバングラデシュがあったからでした。バングラデシュは自分にとって、開発の分野についてもっと勉強したい、途上国の発展になんとか貢献したい、と強い衝撃を与えてくれた国でした。そのバングラデシュでもう一度自分のモチベーションを確認してみたいという思いが、怖さや不安をわくわくするような前向きな気持ちに変えてくれたのを覚えています。全くもって小さな心の葛藤の一片ですが、そのお陰でG.ecboに参加でき、それが自身の具体的なキャリアの一つとなりました。振り返ると、その後のラオスでの進路の岐路や国連への応募の際にも、同じような心の葛藤があり、それらを一つ一つ自分のモチベーションに照らして、わくわくする前向きな気持ちで捉えようとしてきたなと思います。チャレンジの際に感じる不安を、どうすれば前向きに楽しめるか、その転換術を身につけさせてくれたのはもしかするとG.ecboだったのかもしれない。

### ーJICAでの経験

在ラオス日本大使館でもそうでしたが、JICAラオス事務所では日本の国際協力について、様々なスキームについて学び、またそれぞれのスキームの案件形成から実施中の調整、案件終了後の評価などの流れについて、実際に業務に携わる事ができました。特に、国際協力は相手国のニーズに対応できるよう、緊密に相手国政府と調整を行い、さらにその分野の他の開発パートナーとも調整し、援助効果を最大化することが求められていることが印象的でした。ラオスでは、政府が主体となり、ラウンドテーブルプロセスという援助協調の枠組みを設立し、その枠組みの中で様々な開発関係者が協調しながら支援を行おうとしていました。実際に、自分自身もその枠組みの中に身を置き、政府や他の機関とすり合わせを行いつつ、どのようにラオスの開発課題に取り組んでいくか検討するプロセスを経験できたことが、現在のUNDP(国連開発計画)での業務にも大きく役立っています。



写真ラオスでのラウンドテーブル会合の様子  
(2019年)

【お知らせ】 G.ecboプログラムのHP、先輩の体験談、就職活動体験記&OB報告が探しやすくなりました!!

① 国別掲載ページ

[インターンシップ体験談 | 広島大学 \(hiroshima-u.ac.jp\)](https://www.g.ecbo.jp/inter-internship-experience/)

② 掲載年度順ページ

[就職活動体験記・OB報告 | 広島大学 \(hiroshima-u.ac.jp\)](https://www.g.ecbo.jp/employment-experience-ob-report/)

①



②



## 国際関係で働くOB/OGからのお便り その3

松井駿さん

JICA職員 大学院国際協力研究科 修了  
派遣先: 2015年度 FORWARD Nepal (ネパール)

私は2017年に国際協力研究科を修了後、JICA(国際協力機構)に入構しました。2021年6月からはJICAザンビア事務所に駐在しています。現在は、農業・農村開発の担当として、稲作や灌漑のプロジェクトなどを担当しています。事務所での仕事としては、現地でのプロジェクトの進捗管理や、ザンビア国政府との調整が主となります。

アフリカと聞くと、危険だったり、未開の地といったイメージをもたれる方もいらっしゃるかもしれませんが、ザンビアは人が穏やかで優しく、平和で住みやすい国です。また、首都ルサカには近代的なショッピングモールがいくつも存在しており、生活するには困らない環境です。

G.ecboプログラムは、大学院に入学するまで途上国に行ったことがなかった私にとって、国際協力の世界に携わるきっかけを提供してくれました。本プログラムを活用して、大学一年生の時にネパールの農村で調査を行いました。その中でも、一緒に活動したネパール人通訳とのコミュニケーションに苦労した経験は、今の仕事をするにあたって生きています。当時の私は、調査を予定通りかつ正確に進めたい気持ちが強すぎたために、通訳に対して自身の主張を押し付けてしまっていました。結果、調査自体は無事に予定通りのデータを収集したものの、彼のモチベーションを削いでしまい、最終的には若干喧嘩別れのような形になってしまいました。

現在の仕事では、ザンビア人の現地スタッフと協働して仕事を進める必要があります。その際に、まずは彼らの話を聞き、考え方を尊重しつつ、物事を判断するように心がけています。彼らと仕事をする中では、思い通りに物事が進まずに、つい自分の考え方を通したくなることもあります。そんな時は、G.ecboプログラムでの教訓を思い出し、ザンビア人の主体性を尊重することを意識して心がけています。



### 赴任地ザンビアの風景



ザンビアの街中に咲く火炎樹の花/ジャカラランダの花



灌漑プロジェクトサイト



ザンビアの国民食シマを食べる人々



2015年 FORWARD Nepal (ネパール)  
インターンシップ時



## 世界で、日本で活躍するOB・OG

村上 弥生さん MURAKAMI Yayoi / JICA中国 研修業務課 プログラムオフィサー  
2018年度 メコン大学日本語ビジネス学科(カンボジア) 派遣 / 国際協力研究科(教育文化) 修了)

### ー近況, 現在の仕事について

IDEC修了後、現在はJICA中国センター研修業務課にて勤務をしています。独立行政法人 国際協力機構であるJICAは、日本の政府開発援助(ODA)のうち、技術協力や円借款、無償資金協力を行っています。私の業務内容は、技術協力の中のひとつに位置づけられる研修事業を担当しています。主に、JICA長期研修員(途上国から日本へ留学する修士や博士学生)の来日や帰国等のサポート、課題別研修(教育・平和分野)の実施運営・調整業務です。普段は、関係者とメールや電話、オンラインミーティングやモニタリングでの対応が多いですが、研修員と対面で会うこともあります。途上国と日本の架け橋になっていることに、やりがいを感じています。



@JICA中国

### ーインターンシップから現在までを振り返って

G.ecboのインターンシップから現在までを振り返ってみれば、光陰矢の如し時間が過ぎていきました。なぜなら、大学院生活は、日々の授業、研究、論文執筆、就職活動と様々なことに追われていたからです。何事にも挑戦を続け、失敗や経験を積み重ねてきました。研究や論文執筆をサポートしてしまう日もありましたが、研究室の友人や先輩・後輩たちと励まし合い、諦めずに奮闘しました。指導教員と家族にも感謝をしています。



日本語の授業の様子 @メコン大学

### ーこの業界を選んだ理由

学部卒業後、教員、JICA海外協力隊(青年海外協力隊)ガナでの2年間を経て、大学院、JICA職員とキャリアを積んでいます。必死に前を向いて藻掻いてきましたが、振り返ってみれば、軸は、教育×国際協力でした。途上国に興味を持ったきっかけは、義務教育のなかで、学校へ行くことが出来ない子どもたちがいると知ったことでした。これからも初心を忘れず教育分野での専門を生かし、国際協力に貢献していきたいです。



学位記授与式 @広島大学

### ーインターンシップで得たもの・インターンシップの経験が就活に与えた影響

インターンシップで得たものは、挑戦する姿勢と柔軟に対応する力です。カンボジア・メコン大学でのインターンは、日本語クラスを教えるものでしたが、コマが確定している訳ではなかったため、教員と相談して日本語クラスのコマを貰い授業をしたり、放課後に合唱の授業を開催してみたりと、日々試行錯誤の挑戦の連続でした。新たな環境へ飛び込み、柔軟に対応した経験は、就活でも活かされています。

ー後輩へのアドバイス この文章を読んでいるあなたは、G.ecboプログラムに興味・関心があるのではないのでしょうか。失敗と成功はどちらも血肉になり経験となります。自分の信念を持ち、努力と覚悟を決め、取り組んでいけば何事も上手くいくと私は信じています。途上国の生活や仕事を現地で経験できる、インターンに挑戦してみたいはかがでしょうか？

## 世界で、日本で活躍するOB・OG

田村 絵果さん TAMURA Eka / JICA北海道 市民参加協力課 開発教育担当  
2019年度 JICAポリビア在外事務所(ポリビア) 派遣 / 国際協力研究科(教育文化) 修了)

### ー近況、現在の仕事について

私は国際協力研究科を修了後、JICA北海道センターの開発教育・広報担当として働いています。JICAと聞くと、海外で仕事をするイメージが強いのと思います。しかし、JICA事業はとても幅広く、海外で得た知見を国内に還元するためにも国内拠点での業務が重要となってきています。その中でも私は、日本の市民の皆様により近い立ち位置にいます。これまでのJICAボランティア経験や、国際協力研究科で学んだ知識を活かして、市民向け国際協力イベントの企画や、教員・学生向けのセミナーを開催・運営しています。また、インターンシップの学生受け入れも担当し、一緒にイベントの運営も行いました。

### ーインターンシップから現在までを振り返って

インターンシップで担当した広報業務は、手掛ける業務範囲とても広く、正直、やりたいことは何でもできる！というポジションでした。逆に言うと、決められた業務がないため、自ら開拓していかないと何も始まらない状態でした。イベントのフライヤー作成から、所内へのアンケート作成などを行いました。まさに今、広報担当として同じ業務に従事しています。笑「広報がしたい！」という理由でインターンも現在の仕事も選んだわけではないのですが、色々な繋がりでここまでできました。0から1を生み出す業務は難しいですが、自分には合っていると感じます。



国際理解教育の一環で、中学生にSDGsについて説明の様子@JICA地球ひろば



ポリビアでの国際交流イベントの様子  
@Bolivian Park



広島大学国際協力研究科 修了記念！

### ーこの業界を選んだ理由

初めて住んだ海外の国ポリビアでは、たくさんの感情を抱いて日本に帰国しました。その熱が冷めやらぬ私は、ポリビアの教育についての研究を選びました。また、日本国外の生活が居心地良く、活動も上手くいったと思っていたため、海外に携わる仕事がいいと考えていました。しかし、研究を進めていけばいくほど、自分の生まれ育った土地への愛着、自分の経験や知識の還元方法を考えることになりました。その結果、海外拠点よりも北海道で。かつ、教育分野で国際協力関係の仕事があればいいのにな…、と思うようになりました。運よく募集があったのが今のポジションです。家族の都合もあり、呼ばれたのだと思って、今の仕事に決めました。

### ーインターンシップで得たもの・インターンシップの経験が就活に与えた影響

インターンシップでは、業務における「実現性」の重要性を学びました。広報担当として様々なことをやらせていただきました。提案もしました。しかし、どれも実際に事務所で実行していくまでのステップは踏めていなかったため、実現はしていません。業務を遂行していくためには、例え小さなものでも必要事項を限りなく想定し、達成していく必要があると改めて学ぶことができました。

ー後輩へのアドバイス 先の文章では、「業務の実現性」が大切だとは書きましたが、インターンシップはあくまで「職業体験」です。体験なので、失敗も成功もすべて自分の参考資料だと思って大胆に取り組んでいってください！そして、自分から積極的に関係性を構築して、業務以外のところでも進路や人生の先輩の教を学んでいってください。研究でも、就活でも、インプットするためにはアウトプットも重要になってきます。でも、本番前にアウトプットできる場がない…そんな時は、キャリアセンターのキャリア相談などを利用し、考えを整理することがオススメです。



## 世界で、日本で活躍するOB・OG

田口 大志 さん TAGUCHI Taishi / 国際開発コンサルタント

2019年度 NTCインターナショナル(コートジボワール) 派遣 / 国際協力研究科(教育文化) 修了)

### ー近況, 現在の仕事について

人生初の都会に住み、1500円のクラフトビールを買っても誰にも怒られず、家に高いビールがあると思うだけで頑張ることができています。現在は開発コンサルタントの末端としてCOVID-19に関わる案件で、医師の方々と、病院以外で初めてしっかりコミュニケーションをとっております。私は母が医療従事者なので、医療関係の案件に携わり、少しは親孝行できているのかなと思っています。その反面、COVID-19のせいで楽しいコートジボワールでのインターンを早めに終わらせられ、COVID-19のせいで全ての人生設計を狂わされた人々に代わり、本案件にしっかり取り組んでいます。



しっかり仕事をしている笑い男@Office

### ーインターンシップから現在までを振り返って

インターンシップを終え、体調を崩しかけながら修士論文を執筆、無事に大学院を卒業後、2年ぶり3回目の無職に返り咲きました。人生の打率の低さがここで響いてきたのかもしれませんが、7か月の浪人生活(無職)を経て現在の会社に当落線上ぎりぎりですぐに入社することができました。この業界は狭き門で、入ることができただけで幸運でした。また、それを超える幸運として28歳で国際開発コンサルタントになることができました。ただただ、私を受け入れてくださった会社に対して感謝の気持ちしかありません。



現地スタッフとの打ち合わせ

### ーこの業界を選んだ理由

某マンモス大学を卒業後、青年海外協力隊(現海外協力隊)でウガンダに派遣され、ど田舎の任地で初めて会った日本人は、開発コンサルタントという仕事をしている女性でした。その時、初めてこの仕事を知りました。その後、様々な国際開発を行う方々とお会いする機会がありました。どうにも開発コンサルタントの人々は、裸一貫で対象国政府関係者やJICAと渡り合いその姿が単純にかっこいいなと思い、目指すようになりました。

### ーインターンシップで得たもの・インターンシップの経験が就活に与えた影響

私も一般的な日本人であり、海外の方が海苔を消化できないように、ココナッツオイルが消化できないことを身をもって知りました。また、開発コンサルタントが現場で何をしているのか、現地プロジェクトメンバーとの関係性、プロジェクトの終わらせ方や、現地JICA事務所とのやりとりを実際に見ました。それらの経験が、面接の際に未経験ながらも仕事への理解度を高め、自信をもって面接に挑むことができました。



【異文化理解】住民との交流を兼ねてお店で注文できるすべてのビールを制覇@コートジボワールのBar

ー後輩へのアドバイス 脱線しているタイプなので参考になるようなキャリアではないので、特に私から伝えられることはないと思います。強いて言うなら、あなたが何をしても、何もしていなくても、この文章を読んだその時は、会ったこともない私が、あなたを肯定いたします。たぶん大丈夫っす！！

## 【コラム】先輩の声から考えるG.ecboインターンシップと就活

近年の就職活動は、インターンシップから始まると言っても過言ではありません。インターンシップは、「在学中や卒業直後の学生が、自分の専攻や将来のキャリアと関連した就業経験を、一定期間指導を伴い行うこと」（文部科学省）と定義されています。もともとはアメリカで就職のミスマッチをなくす為に生まれた制度です。G.ecboプログラムは、Global Explorers to Cross Borders（国境を越えるグローバルな探検家たち）の名のごとく、グローバルインターンシップを核（柱）として事前研修および事後研究からなるサンドウィッチ教育が特徴です。このインターンシップは、研究活動であるとともに、将来の職業を考える大きなきっかけにもなります。そこで、-10年後の自分を探そう世界と出会うインターンシップーの言葉の様に、社会に羽ばたいた先輩方の記事、後輩へのアドバイス等を抜粋しました。インターンシップが派遣生の就職活動にどのような影響し、強みになったかをお伝えします。迷っている人は「Let's join the G.ecbo program！」

このプログラムに参加する前は「海外で働いてみたい」だった思いが、インターンを経験したことで「海外で働きたい」という強い思いに変わりました。（2019年度生 森脇宇俊さん：株式会社アルメックVPI（フィリピン））

インターンシップ前から事前研修を通して発表の機会が多くあったので、面接で堂々と話すことができました。（2018年度生 曾原葵さん：インドネシア教育大学（インドネシア））

無数にある企業の中から、縁ある会社に出会うには、優秀である前に「自分」を知り、会社選びの作戦を立てることが何よりも重要なのだろう。心が高揚する環境に巡り合えたことが私の就職活動に有利に働いたのかもしれない。（2011年度生 延川裕樹さん：ケニヤツタ大学（ケニヤ））

「すごい経験ですね」就職活動の面接で毎回のように言われた。インターンシップ派遣中は無我夢中でとにかく走り回っていたが、実は尋常でない経験をしていたことに就職活動で改めて気づき、また自分にどれだけ大きな影響を与えた1か月だったのかを再認識出来た。（2007年度生 林田さやかさん：アルメック株式会社・ハノイ事務所（ベトナム））



広島大学公式マスコット  
ひろディー®

フェニックスの翼が、幾多の困難を乗り越えて大きく育ち、不死鳥のようにたくましく大空へ羽ばたいていく姿を学生に重ね合わせてデザインしています。



海外への留学は一般的になってきていますが、就職活動中はTOEICの点数などで測れる語学力のようなわかりやすいものよりも、そこでどれだけ日本で得られ難い経験をし、どう考え、どう行動したかということが重要視されていると思います。（2016年度生 日比野啓人さん：グリフィス大学（オーストラリア））

官庁訪問では、インターンシップで体験したことを気象庁の志望動機に含めて話したところ、国際協力という視点で気象分野の発展を考える学生は少ないようで、面接官の方が興味を持って聞いてくださった。研修期間は1か月と短かったものの、国際協力の必要性を明確に感じる事ができ、将来の気象分野の発展を考える上において自分のモチベーションを向上させる本当に良い機会になったと感じている。（2008年度生 片岡義久さん：JICAマカッサルフィールドオフィス（インドネシア））

「現場を知ることが大切」というインターンシップでの教訓は、就職活動でも活かすことが出来ました。現場の状況を知ると働くビジョンも明確に話せるようになり、面接官の共感を得ながら面接を進めていくことが出来ました。（2007年度生 土屋善之さん：アルメック株式会社（ベトナム））

国際協力・援助の仕事を目指される方へ。求められる能力とは？

開発途上国の国づくりに関われる大変やりがいがあり素晴らしい仕事です。しかし、その華やかさの裏には苦労も多いということを知った上で目指していただきたいと思います。参考までに現場で若手に求められる能力は以下になります。

1. 異文化適応力・想定外に対するレジリエンス（くじけず前向きに取り組む）
2. 交渉力および表現力（コミュニケーション力）・語学力
3. 好奇心・観察分析力・行動力
4. 自分のキャリアをデザインする・健康な心身を保つ
5. 上記に加え、将来にかけて自身の専門性を構築できるとなるとよい

G.ecboプログラムは、貴重な体験ができる画期的なプログラムだと思います。積極的に挑戦し、学術研究や卒業後のライフデザインに役立ててください。（2013年度生 酒寄晃さん：株式会社パデコ（バングラデシュ））



## 2021年度オンライン留学WEEK合同留学報告会に参加

G.ecboの2つのプログラムに参加した深谷康佳さんが、オンライン留学報告会に参加しました。学部生に将来の選択肢の一つとして知ってもらえるよう、体験を交えながらパワーポイントを使って発表しました。

日 時： 2021年5月12日(水)18:00~18:45  
発表者： 深谷康佳さん(文学研究科 D3)

派遣先:

- ①インドネシア教育大学(インドネシア)  
2015年度派遣(M1)/ G.ecboプログラム
- ②Sina Rang Lemulun Homestay(マレーシア)  
2018年度派遣(D1)/ 遡上教育型プログラム



2回の海外インターンシップ他で  
培った英語力で、  
「未来博士3分間コンペティション  
2021/ HIRAKU 3MT Com-  
petition 2021」  
英語部門ファイナリスト  
11人にも選出!!

<p>2. G.ecboでできること (私の場合:言語学)</p> <p>2015 日本語教師の第一歩 言語調査 (Sundanese, Indonesian (BI))</p> <p>2018 遡上プログラム BIを使用してケラビット語調査</p> <p>修士 ・ インドネシア教育大学 (バンドン) ・ スンダ語話者の居住地</p> <p>博士 ・ マレーシア (バリオ)</p>	<p>2. G.ecboでできること (私の場合)</p> <p>2015年度 修士</p> <p>2018年度 博士</p> <p>修士・博士で2回派遣 日本語教育と言語調査</p> <p>専門を生かしどう生きるかという答えを探る</p> <p>語学教師 研究者 人材育成 言語学</p>	<p>3. こんな人におすすめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外の人と協働したい人</li> <li>・ 現地でしたいこと(実験・調査)がある人</li> <li>・ 専門に関わる職について知りたい・経験を積みたい人</li> </ul> <p>言語や座学、「留学」ですることは準備として、 G.ecboの事前研修で底上げのチャンスがあります!! 次のステップにも進みたい人におすすめ!</p>
--	---	--

※発表スライドより抜粋掲載

## 世界に広がる派遣先 紹介&メッセージ

< West Java Environmental Agency, Indonesia Yulie Budiasih, Government Planner >

First of all, I would like to express my gratitude towards the opportunity to greet you.

My name is Yulie, I am a government planner that has been working in a provincial government institution, West Java Environmental Agency, Indonesia, since 2011. During this period, I have accepted three internee students from Hiroshima University. All of them are men, coincidentally. One took transportation management as the study and the other two took disaster mitigation. All of them were placed under my supervision. The challenge was, somehow, we had to adjust many scopes of work because the internees' background study and our main duty were not necessarily inline. Nevertheless, this is very memorable experience for us because we could share our idea, thought, and life experience during the internship. The students became internee in my office but actually I also learnt many things from them. Moreover, since then, we keep good communication via social media.

In summary, I think the global internship program under i-ECBO (G.ecbo) is a golden chance for those who wants to see how the world works. If you are interested to go to Indonesia and your study concerns about these subjects;

low carbon development,

- ・ community based environmental conservation,
- ・ environmental law enforcement, or
- ・ environmental control and management,

please feel free to join West Java Environmental Agency.



Internee conveyed a speech



Internee from involved in a workshop

【派遣実績】 2011年度1名, 2012年度1名, 2014年度1名

## 2021年度RA(リサーチアシスタント)紹介

G.ecboプログラムでは、過去にインターンシップを行った学生をリサーチアシスタント (RA)として雇用し、研修・運営の支援をお願いしています。  
昨年度に続き派遣は中止となりましたが、記事作成や翻訳等のご協力をいただきました。RAの2人にG.ecboプログラムへの思い等を書いてもらいました。

### PHYU PHYU ZAW (国際協力研究科D3)

"Hello everyone! I am a Myanmar PhD candidate studying in IDEC. I am one of the two RAs currently working for the G.ecbo program. Fortunately, I got the chance to join the program twice. Back in 2017, with the support of the G.ecbo internship program, I went to the Florida State University (FSU) in the United States to join the Program of Instructional Excellence (PIE) for fifty-four days. And later, again in 2020, with the follow-up research internship program, I went to the University of California (UCSD) in San Diego, United States, to attend the programs which are related to my doctoral research in the UCSD Center for Mindfulness (CFM) for two months. Both above-mentioned internships are substantially beneficial for me to develop both academically and socially. Essentially, the program helps me in so many ways to get out of my comfort zone and experience new challenges in a very positive way. And gaining a deeper understanding of a different culture sored me to previously unattainable heights of insight both intellectually and linguistically. Therefore, please let me recommend you all to consider joining the program once before you graduate from HU. Hope you all have wonderful and precious experiences with the upcoming programs before your graduation. Have a good one!"



### 陳麗蘭/LILAN CHEN (教育学研究科D3)

私は、2017年度の派遣でアメリカのフロリダ州立大学で1か月のインターンシップに参加しました。インターンシップを実施する前の発表、途中のレポート、実施後の報告、及び現在のRAの研修など、すべての経験が博士課程に進学した私に非常に役に立つと実感しています。

まず、事前事後の報告は、今の博士としての学会発表や質疑応答などにつながっています。その経験によって、自分の意見を明確に表すためのコミュニケーション能力と、人の前で表現する能力を身に付けました。

そして、アメリカでの1か月は、様々な国からの学生との異文化交流によって、英語力に加え異文化への理解力・適応力も上達しました。私の研究課題は大学国際化なので、そもそも異なる背景を持つ人々とのコミュニケーションが必要なため、この経験は大変勉強になりました。

派遣中は、色々な困難がありましたが、今振り返ってみれば、このプログラムに参加して本当によかったと思います。



### 事務局編集後記

コロナパンデミックの影響で、海外派遣は2年間中止となりました。過去のインターンシップ派遣の体験談やHPを整理していると、G.ecboプログラムの体験は、将来の職業選択に大きくかかわっていることを知り、大変興味深く感じました。そこで、今回、キャリアコンサルタントとしての視点も含め紙面をまとめてみました。将来のG.ecboプログラム生の就活や職業選択の参考になればうれしく思います。このご縁に感謝します。ありがとうございました。2022年度の派遣情報は、G.ecboのHPで最新情報をご確認ください。(事務局)



広島大学 学生プラザ 2階  
グローバルキャリアデザインセンター内  
G.ecboプログラム事務局  
Email: gecbo@hiroshima-u.ac.jp  
https://www.hiroshima-u.ac.jp/gecbo

